

平成21年度小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修

「平成21年度小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修」が10月5日（月）から7日（水）にかけて静岡県静岡市で開催され、総合教育センターから研究指導主事が1名参加したので、その内容を以下に報告する。

【第1日】

課題協議1「小学校における外国語活動の在り方」

文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子

小学校学習指導要領・同解説を基に、小学校外国語活動の目標・新設の理由についての確認があり、その後、外国語活動の必修化に向けての条件整備としての英語ノート・研究指定の説明があった。

英語ノートについては、これまでの外国語活動実施状況に差があるため、単元を選択したり適宜活動を取り入れたりして活用をすることが必要であり、評価を中心として、教師用指導資料の年度内修正を検討中であるとのことであった。

研究指定については「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価に関する実践研究事業」（2年間）と「英語教育改善のための調査研究事業」（3年間）が行われており、前者では①教材の効果的な活用法 ②小規模校、複式学級、特別支援学校等における指導方法 ③評価 ④学級担任・外国語活動担当教員が中心となる指導体制が、後者では ①開始年次、授業時数の在り方等教育課程上の枠組み ②小学校で英語教育が早期実施された場合の中学校での教育内容等が研究されているという紹介があった。

班別演習1「外国語活動を推進する上での課題」

独立行政法人教員研修センター主幹 渡邊 信治

事前提出資料をもとに、外国語活動を推進する上での課題とその改善方策について班別で情報交換及び協議を行った。

①教員の意識改革 ②指導力向上の方策 ③ALTとの連携等、指導者に関する課題や、校内研修のもち方、小中連携、教材、評価等が多くの班で話題に上った。

課題協議2「コミュニケーション活動の在り方」

静岡大学教育学部教授 白畑 知彦

小学校での英語活動に関し認識しておくべきこととして、教科としての英語教育が始まるのではないので、小学校の外国語活動では、体験を通して言語や文化に対する理解を深める中で外国語（英語）に触れるとともに英語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うことが大切であるとの説明があった。また、年間35時間では英語能力は身に付かないため、解決すべき課題を提出し、子供たちの内発的動機付けを誘発する問題解決型の授業がよいとの指摘があった。

続いて、英語ノートに基づいた様々なコミュニケーション活動案が具体的に示されたが、実践的で示唆に富むものであった。

【第2日】

課題協議3「外国語活動を円滑に進めるために」

文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子

前日の「班別演習1」を受け、参加者の抱える課題に対して解決の方向性が示された。小中連携には多くの時間が割かれ、小中学校の協力体制には①情報交換②交流③連携④一貫の4段階があり連携は、小中の「指導内容の距離」を縮めるものであるということ。また、その際には「外国語活動」と「外国語科」のねらい・学習内容・指導法・評価・指導者の違いを意識しておかねばならないとの指導があった。

研修教材DVDの活用について

独立行政法人教員研修センター主幹 渡邊 信治

教員研修センター制作・発行の研修教材DVD “You can do it.” “Enjoy English Together!”の活用方法について説明がなされた。

演習1「外国語活動の授業実践1」

一聖母女学院小学校常勤講師 加藤 君江一

学級担任一人による授業において指導者に求められる力として、①児童が、興味・関心を抱く学習内容と活動を設定する ②積極的にコミュニケーションを図ろうという気持ちを起こさせる ③英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる、の3点を上げた後、ゲームやタスクの紹介がなされた。

また、学級担任にしかできないこと、及びその重要性について説明がなされ、「担任の強み」を十分生かすべきであるということが強調された。

演習2「外国語活動の授業実践2」

文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子

京都市教育委員会学校指導課ALT Matthew Hirakawa

チーム・ティーチングの意義は、「複数の指導者がそれぞれの役割分担をして授業を展開することにより、指導者が単独ではできなかった活動を組み込むことができる」とともに、児童一人一人に、より細かな指導をすることができる。また複数の指導者がそれぞれのアイデアを出して授業を計画することにより、単独では考えつかなかつたり、いつもと違った展開をしたり、様々な教材を準備したりすることも可能である」ところにあるとの説明があった。また、効果的なチーム・ティーチングを行うためのポイントについて、①学級担任の役割 ②ALTの役割 ③授業中の留意点 ④授業準備、授業後の打合せ ⑤中学校英語科教員とのチーム・ティーチングの5つの観点から解説がなされた

演習3「外国語活動の授業実践3」

鳴門教育大学大学院学校教育学研究科准教授 兼重 昇

デジタル教材の効果的な利用を図るため、①基本概念 ②利点 ③活用例 ④活用のための留意点の4つの観点から講義がなされた。④の中で特に留意すべき事項として、デジタル教材を「いかに使うか」を考え、デジタル教材のコンテンツ（内容）やコンピュータ等の機能について、事前に研修等を通じて体験的に確認することや、アナログとの効果的な融合を図り、板書との関係についても考慮することの重要性が強調された。デジタル教材だけでは飽きてしまう可能性を認識し、児童や学校などの実態に応じた発展的活動へのきっかけとして活用することを常に意識しなければならないとの指摘もあった。

【第3日】

事例協議「先進校における授業実践」

大阪樟蔭女子大学教授 菅 正隆

鈴鹿市立神戸小学校教諭 岡田 恵子

授業をみる視点について①事前に ②授業で ③指導者として ④授業環境の4つの面から、次のような具体例を挙げながらの説明があった。

事前に

- ・ 単元，授業の目標（ねらい）が学習指導要領を踏まえて，適切か
- ・ 児童の実態に合った目標か
- ・ 取り扱う語彙や表現は適切か
- ・ 評価規準は適切か
- ・ 評価の考え方は適切か

授業で

- ・ 目標達成に向けた活動か
- ・ 児童の実態に合った活動か（難易度，興味，楽しさ等）
- ・ 時間配分は適切か
- ・ 授業に工夫があるか
- ・ 使用教材・教具は適切か
- ・ 授業マネジメント，児童の扱いは適切か

指導者として

- ・ 英語，日本語が適切か
- ・ 声の大きさ，メリハリ，リズムは適切か
- ・ 児童を十分に観察しているか
- ・ 授業をコントロールできているか
- ・ 楽しく授業を行っているか

授業環境

- ・ 教室が外国語活動を行う環境になっているか

その後，先進校における授業実践ビデオ「第5学年『2学期の英語活動を始めよう！』」を視聴し，助言の演習を行った。

班別演習2・3「具体的な授業実践1・2」

文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子

鳴門教育大学大学院学校教育学研究科准教授 兼重 昇

事前提出資料「具体的な授業実践」を基に班別に活動計画を立て，模擬授業を行った。

意見交換・質疑応答「研修講師となるために」

文部科学省教育課程課教科調査官 直山 木綿子

鳴門教育大学大学院学校教育学研究科准教授 兼重 昇

独立行政法人教員研修センター主幹 渡邊 信治

研修における指導・助言のポイントとして①担任の言葉，児童の反応をできる限り全てメモする②活動，指導法，教材の3つの視点をもつ③授業の一般化，ルール化を行う，の3点を上げ解説がなされた。

閉講式

渡邊主幹からは，組織的取組のため管理職の理解が必要であること及び「フットワーク」「チームワーク」「ネットワーク」の3つの「ワーク」を大切にすること，兼重准教授からは教材・設備等に

